

ジャノメチョウ

澄川基地の物置増築の手伝いを午前中に切り上げて、オイスカとの植樹会の打合わせのため早上がりして、駐車場広場に上がったところで、ふわふわと飛ぶジャノメチョウに出会いました。追跡して撮影。2010年8月25日11時3分でした。

ジャノメは蛇ノ目と表記されます。ヘビの目のことで、この蝶の上翅にある斑紋が蛇の目状であることから命名です。地味な灰色の素地に太目の黒枠の中心に美しいブルーを点晴した蛇の目を左右対称に上翅に4か所下翅に2か所をバランス良く配置されていて、粹な感じです。翅裏もほとんど同じ色合いで蛇の目

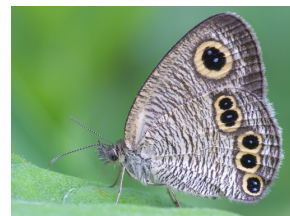


模様もそのまま裏抜けしています。みは右上の画像のように下翅の目はありません。澄川駐車広場の草地でよく見られる蝶なのです。出現は7~8月。大きさは中型で開長52~62mmです。

分布はユーラシア大陸の温帯域に広く、日本ではほぼ全土に棲息しています。

食草はイネ科の植物ではススキ、スズメノカタビラ、カヤツリグサ科ではヒカゲスゲ、ショウジョウスゲなど。

蛇の目模様が怖いと、この蝶や近い仲間の蝶を嫌いな人がいるようで、たしかに右のヒメウラナミジャノメのように目玉がたくさんついていて不気味な感じがしないでもないか、と思うにやぶさかではありませんが、蝶の翅の模様そのものが天敵を驚かせる目的もあるので、実害などない可憐な蝶をも怖がる人がいること



とも理解できます。好き嫌いは人それぞれに違うことをしみじみ感じる次第であります。

幼虫は芋虫状で毛虫ではありません。イネ科の雑草を食べてくれるので、益虫です。

蛇の目は和傘や利き酒猪口の底などにみられるように、古くから日本文化に溶け込んでいて、お世話になっているのであります。

